



私の生きざま、活字で残す

「私の一冊」続々と

市村さん、広滝さんのほかにも、朝日自分史による自分史本が続々と生まれています。その一部をご紹介します。

戸塚きんじさん (90)

「シベリア虜囚記」

シベリアに抑留された20歳の頃の体験を、帰国直後に大学ノート1冊につづった。敗戦後の旧満州・奉天(現・瀋陽)でソ連軍に連行され、送られたシベリア・チタ。栄養失調で仲間を失いながらも極寒と重労働に耐えて生き抜いた2年間を記した。帰国直後の生々しい記憶がよみがえる。孫が描いたかわいらしいイラストも掲載。



村上英子さん (81)

「障子がカーテンに変わったころ」

3人の子育てを終えてからインテリアコーディネーターとして活躍し、三井グループ初の女性取締役に就いた半生を、日本のインテリアの変遷を絡めつつ描いた。自宅の庭を飾った美しい花々のカラー写真も多数収録。現在会長を務める日本インテリアコーディネーター協会の講演会で本を紹介した。



小澤イクエさん (91)

「みち一筋に学びなば」

長野県の農村に生まれ、「看護婦になりたい」との夢を抱いて10代で単身上京。海軍病院の看護師として壮絶な戦争体験をした。戦後は看護師をしながら学問に励み、その後は小学校の養護教諭として勤め上げた。詳細な日記をもとに記者がインタビューを繰り返し原稿をまとめた。

